

# 質 問 書

※ この MS-WORD 文書のまま送付お願いいたします。(PDF 等のフォーマットへ変換しないでください)

2022 年 8 月 19 日

「インドネシア国新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト(追加コンポーネント)」  
(公示日:2022 年 8 月 10 日/調達管理番号:22a00376)について、質問と回答は以下の通りです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	p.10 第 2 章第 6 条(3) パートナー病院の選定	パートナー病院は業務開始後に決定の予定と理解されることから、一般業務費の旅費・交通費は、企画競争提案時には計上しないことによいでしょうか。もしくは定額計上をご指示いただけないでしょうか。	ご理解のとおり、パートナー病院(本格活動での病院含む)は業務開始後に確定予定ですが、想定渡航回数は計 30 回(業務従事者 1 名あたり約 5 回)、1 回あたりの想定渡航日数は約 6~15 日として計上いただけると幸いです。なお、インドネシア国内の旅費・交通費についてはパートナー病院確定後に見積可能となるため、今次見積では計上不要です。
2	p.11 第 2 章第 7 条 1. (1)業務計画書 / Work Plan の作成	「本プロジェクトに係る詳細計画策定調査結果報告や R/D 等を踏まえ」と記載があります。詳細計画策定結果をご共有頂けますか。	内部資料となりますので公示時点では非公開と致します。契約締結後に共有致します。
3	p.12 第 2 章第 7 条 1. (3)合同調整委員会(JCC)の開催 (4)技術ワーキンググループ(TWG)の開催	JCC や TWG の開催言語はインドネシア語、英語どちらになりますか。 インドネシア語の場合、通訳はコンサルタントによる手配・精算が必要でしょうか。 また、これらの会議はオンライン開催でしょうか。現地開催の場合、会場費等はコンサルタン	開催言語は基本的に英語を想定しています。ただし、TWG ではパートナー病院の医師・看護師の参加も想定しており英語でのコミュニケーションが円滑にいかない可能性も考えられるため、適宜現地再委託先もしくは特殊傭人(現地通訳)を活用してインドネシア語訳を入れる想定です。

		ト手配・精算が必要でしょうか。	インドネシア語通訳を行う人材については、コンサルタントによる手配・精算を想定しています。JCC や TWG の会議は業務進捗に合わせてオンラインと現地開催を適宜選んで実施することを想定しています。現地開催の場合、会場は対象病院もしくは JICA インドネシア事務所となる想定ですので、会場費の精算は不要です。
4	p.12 第 2 章第 7 条 2.(2) Monitoring Sheet p.15 第 2 章第 7 条 4. (1)、(2)、5.(2)Monitoring Report	Monitoring Sheet と Monitoring Report は同じものと考えてよろしいでしょうか。	同じものです。異なる表記で記載しており大変失礼いたしました。
5	p.13 第 2 章第 7 条 1. (6) 事業完了報告書 / Project Completion Report の作成	最終成果品となる事業完了報告書にインドネシア語は含まれていませんが、報告書の承認をインドネシア側からも得ることが求められています。これ以外にも各報告書等がありますが、全てインドネシア語への翻訳費は計上して構わないでしょうか。 ないしは、カウンターパートは全て英語でのコミュニケーションが可能という前提での見積もりとして差し支えないでしょうか。	16 ページに記載の通り、報告書は和文及び英文を想定しており、インドネシア語への翻訳は不要です。
6	p.13 第 2 章第 7 条 2. (4) 遠隔医療機器導入支援  p.21 第 3 章 2.(3)再委託 1)	パートナー企業への再委託費は 3 件合わせて約 4,600 万円を想定とのことですが、この中には遠隔医療機器の機材費、機器の輸送・通関等に係る費用等が含まれているという理解でしょうか。	ご理解の通りです。

7	p.14 第2章第7条2.(7) 本邦研修参加者の側面支援	本邦研修の実施時期をご教示ください。	配布資料「インドネシア国新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト」のR/D(政府間技術協力プロジェクト合意文書(Record of Discussion))改訂にかかる議事録」に記載の通り、2023年下半年(2023年7月以降)を予定しています。
8	p.15 第2章第7条4.(2)	「大学病院を中心とした遠隔医療普及のためのモデル」とは既存のAHSのネットワークを基盤とすることを想定していますでしょうか。	既存のAHSネットワークを活用しつつも、本案件では、インドネシア大学病院とそのパートナー病院間、ハサヌディン大学病院とそのパートナー病院間の遠隔医療普及のためのモデルを作る想定です。
9	p.15 第2章第7条4. (3)遠隔医療促進のためのセミナー企画運営	セミナーの実施言語はインドネシア語、英語どちらになりますか。 インドネシア語の場合、通訳はコンサルタントによる手配・精算が必要でしょうか。 また、これらの会議はオンライン開催でしょうか。現地開催の場合、会場費等はコンサルタント手配・精算が必要でしょうか。	セミナー講師は日本人、参加者は本案件の対象病院、及びAHS参画大学病院等の医療従事者を想定しているため、英語もしくは日本語⇄インドネシア語の通訳を手配して実施することを検討しています。 そのため、コンサルタントによる英語もしくは日本語⇄インドネシア語の通訳手配・精算が必要となります。 また、参加者はインドネシア各地から参加することが予想されるため、セミナーはオンライン開催を想定します。
10	p.15 第2章第7条5. (1)遠隔医療活動での医療データのIHSプラットフォームへの接続	IHSプラットフォームへの接続はRSUHのみ記載されているが、RSUIのIHSへのデータ連携は対象外でしょうか。	ご理解の通りです。

	支援		
11	p.22 第3章2.(3)2)	業務内容が再委託業務として明確に切り分けられる内容ではないと考えられ、都度業務進捗の確認や、指示に基づく柔軟な対応が求められると考えられます。よって、現地再委託ではなく、特殊備人として業務実施体制を提案することは認められますか。	特殊備人として業務実施体制を提案いただくのも構いません。
12	配布資料「新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト」事業進捗報告書 p.21 表表 2-8 遠隔 ICU 通信システム進捗表 ■インドネシア大学病院	先行プロジェクトの事業進捗報告書によれば、遠隔 ICU 通信システムについて、インドネシア(インドネシア大学病院)の到着日は「調整中」とありますが、本事業において先行プロジェクトで調達したこれら通信システムを活用(応用)することが前提となる、もしくは期待されているのでしょうか。	RSUI の活動では、先行プロジェクトで調達した通信システムの一部(患者病床を映すモニターなど)を必要に応じて活用することを検討しますが、活用が前提となるわけではありません。
13	p.13 第7条業務の内容 2.(1)遠隔医療システム導入支援	上記質問に関連して、特記仕様書「RSUI での集中治療に係る活動、RSUH での産婦人科及び眼科に係る活動ではいずれも各病院で開発・試験導入されている遠隔医療システムの(活用?)を検討する。」とありますが、特にRSUIについて、この遠隔医療システムは先行プロジェクトで導入したものを指すのか、もしくは現地の病院がすでに活用しているシステムを指すのか、ご教示ください。	現地の病院で現地スタートアップ企業とともに開発・試験導入している遠隔医療システムを指します。

14	<p>配布資料「新型コロナウイルス感染症流行下における遠隔技術を活用した集中治療能力強化プロジェクト」事業進捗報告書 p.33 第3章 3.1.3.1 (1) ■助言内容および協力の成果・課題・改善点</p>	<p>現状のデータ連携は、「患者情報共有用エクセルシート」を利用していると記載があるが、先行プロジェクトにおいてリアルタイムの患者情報は共有できていないという理解でよいでしょうか。上記理解の場合、今後のリアルタイムでのデータ連携となったとき、既存プラットフォームにデータの保管場所や専用のプラットフォームはすでに構築されているのか、もしくは検討されているのでしょうか。</p>	<p>先行プロジェクト内スケジュールドケア(症例検討)実施中は、患者のバイタルデータを示すモニタをカメラで投影し日本側医療従事者へ共有することでリアルタイムのデータを共有していますが、スケジュールドケア実施中以外の時間帯はリアルタイムの患者情報は日本側に共有していません。</p> <p>なお、先方プロジェクトでの遠隔ICU通信システムでは、データの保管等の機能は有しておらず、先方プロジェクト内でリアルタイムでのデータ連携プラットフォームの検討は行っていません。</p>
15	<p>第2章特記仕様書案 第6条 (2)パートナー企業の選定</p>	<p>医療に係る再委託3件以外の再委託に関しての見積り計上は、それが、医療関係の再委託先と同じか否かは別として調査後でなければ詳細な見積りを出すことは出来ないもので、概算見積りの提出で可能であるか。</p>	<p>「調査後」が何を指摘されているのか分かりかねますが、各活動にかかる再委託先の業務内容は業務開始後に精査される想定ですので概算見積りで構いません。</p>
16	<p>第2章特記仕様書案 第6条 (5)現地人材の効果的・効率的な活用</p>	<p>本事業において使用する基本言語はインドネシア語となるのか。カウンターパート病院からパートナー病院に対して支援を行うような場合は、インドネシア語を基本として、日本人関係者には通訳を介して説明等行う形となるのか。必要となるインドネシア語通訳の手配を行った場合、費用については精算対象となるのか。</p>	<p>基本使用言語は英語になります。ただし、対象病院間でのコミュニケーションはインドネシア語で行われる可能性が高いため、日本人関係者は適宜現地再委託先を活用してインドネシア語⇔英語の通訳でコミュニケーションを図ることを想定しています。</p> <p>なお、現地通訳については、現地業務時の通訳を精算対象とします。国内業務時の通訳については適宜現地再委託先を活用することを想定します。</p>

17	第2章特記仕様書案 第7条 1. プロジェクト全体に係る活動 (4)技術ワーキンググループ (TWG)の開催	TWG-RSUHではIHSプラットフォームとのデータ連携に係る技術的協議を行うとあるが、TWG-RSUIではIHSプラットフォームとのデータ連携は含まないという理解で差し支えないか。	質問番号10と同様、ご理解のとおりです。
18	第2章特記仕様書案 第7条 2. 成果1に係る活動 (3)遠隔医療システム導入支援	見積りを作る際、本格活動時に対象となるであろうパートナー病院はRSUI/RSUHそれぞれ2から7病院と見て、パイロット活動後に病院数を確定させ、契約変更に向けて見積りを作成することで差し支えないか。	パイロット活動と本格活動を合わせたパートナー病院数として、今次見積りでは、RSUIでは3病院、RSUHは6病院という想定で見積りを作成いただけると幸いです。
19	第2章特記仕様書案 第7条 2. 成果1に係る活動 (3)遠隔医療システム導入支援	対象病院でシステムを検討した後に、追加機材が必要となった場合、供与は可能か。見積り金額については、プロポーザル提出時には概算で入れ込むのか。	活動に必要な機材は供与対象となる想定です。供与機材としては主に、パートナー企業が有するものを想定するため、パートナー企業との再委託費の中に機材費を計上いただく想定です。機材の個数については業務開始後に対象病院との協議の上決定するため、プロポーザル提出時には概算額で記載いただき構いません。
20	第2章特記仕様書案 第7条 2. 成果1に係る活動 (4)遠隔医療機器導入支援	パートナー企業が有する遠隔医療サービスに関する機器の導入に関しては、対象病院において実際に診療に用いる医療機器を調達の上、その供与を行うのか。見積り金額については、プロポーザル提出時には概算で入れ込むのか。	番号19をご参照ください。
21	第2章特記仕様書案 第7条 3. 成果2に係る活動 (1)モニタリング評価計画の策定	モニタリング評価の見える化ツールの導入に関しては、モニタリング評価結果を病院などのホームページを利用しウェブ上での常時情報共有を想定しているのか。それともデータ入力から	モニタリング評価のためのツールをゼロからソフトウェア開発することは想定しておらず、既存のパッケージ商品等を活用する想定です。なお、本案件で扱うデータの機密性を鑑み、病院などの

		結果参照までをオンライン上で可能とするツール化システムのソフト開発を想定し進めることを意図しているのか。	ホームページではなく、案件関係者間のみ閲覧可能な形で情報を見える化することを想定します。
22	第 3 章プロポーザル作成に係る留意事項 2.業務実施上の条件 (5)対象国の便宜供与	便宜供与内容の有無にて 1.カウンターパート以外の 2 から 6 までの項目が全て無となっているが、現地渡航時に必 1w 要となる通訳、通信運搬費等の必要経費は予算計上することで差し支えないか。	差し支えありません。

以上